

1. 研究活動

◎展覧会・研究発表			
展覧会企画	2009. 5. 27 ～6. 6	名古屋芸術大学 X 棟 1 階 和室	特別客員教授 SOUSOU、「POP TEXTILE」 展開催。
講演会企画	2009. 5. 29 (脇阪克二) 2009. 5. 30 (若林剛之) 2009. 6. 6 (辻村久信)	名古屋芸術大学 B 大講義 室	特別客員教授 SOUSOU デザイナー 3 名による リレー形式の講演会。
ワークショップ企画	2009. 6. 26 10. 13 20 27 11. 17 24 (有松鳴海絞り 産地) 2009. 9. 29 11. 10 12. 1 2010. 1. 16 (若林剛之) 2009. 10. 2 23 11. 6 2010. 1. 16 (脇阪克二)	名古屋芸術大学テキスタ イル工房、有松鳴海絞り 産地	特別客員教授 SOUSOU デザイナーによるワー クショップ。 若林ワークショップでは、有松鳴海絞り産地 で手ぬぐいを制作、大学で講評。 脇阪ワークショップでは、シルクスクリーン プリントによるクッション座椅子制作を行う。
審査員	2009. 7. 21	主催：名古屋帽子共同組 合	帽子コンテスト イン ナゴヤ 2009 の審査員。
ワークショップ	2009. 8. 5	金沢市卯辰山工芸工房	ペーパーメイキングの技法紹介。
「自宅から美術館へ 田中恒 子コレクション展」招待展示	2009. 9. 8 ～11. 8	和歌山県立近代美術館	「feather」、「a little work」を展示。
パブリックコレクション	2009. 9. 8	和歌山県立近代美術館	「feather」、「a little work」が収蔵される。
「あいちアートの森」招待展 示	2009. 12. 4 ～2010. 1. 31	SMBC パーク栄、中央広 小路ビル	体験型インスタレーション作品「現われては 消える」、「filled with light, water in the air」 を展示。
展示	2010. 1. 26 ～2. 2	名古屋芸術大学アート& デザインセンター	2008 年に開催したアトリエコンサート（創造 の場で行う美術・音楽鑑賞）のドキュメント を展示。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績） 大学院授業担当 有 無

授業科目 デザイン実技 I F3-2/素材体験	
<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要

<p>1 年生ファウンデーションクラフト系課題として、この授業は位置づけられる。自分の身のまわりにある廃品を 30 種類以上収集し、その素材を使って造形物(立体・半立体・平面)を制作する。手を動かしながら、素材固有の触感、重さ、固さを感じ取りながら、素材同士を組み合わせる。</p> <p>自分のイメージにあわせて素材を組み合わせるのではなく、最初に素材を集めそれを組み合わせながらイメージをつくるという素材体験の重要な考え方を示した。どんな素材に興味をひかれるのかを自分で認識するために、素材収集を行い、その客観化を促した。授業の最終日には、各学生がつくった 3 作品を全員で鑑賞し、素材体験の面白さや自分の独自性に気付くことに焦点を合わせた授業にした。</p>	<p>学生が収集してきた廃品(素材)と学生が制作した 3 作品を教材とする。</p>
<p>授業科目 デザイン実技Ⅱ(繊維素材)</p>	
<p>◆前期 <input type="checkbox"/>後期</p>	
<p>工夫の概要</p>	<p>教材・資料等の概要</p>
<p>テキスタイルデザインコース最初に受講する実技授業。通常テキスタイル分野の実技は、糸(織り)や布(染め)から始まり、また材料学は座学の場合がほとんどである。しかし、糸や布以前の状態である繊維素材の特質を学生が理解することがテキスタイル教育の根幹であるという考えから、最初に「繊維素材」を学ぶカリキュラムにした。</p> <p>また、素材に実際に触れるだけとどまらず、照明(植物繊維による紙漉き)やティーコゼ(動物繊維によるフェルト)の制作を通して、より深く素材の特質の理解を促した。</p>	<p>学生が収集したテキスタイルだと思う 50 種類の素材。学生が栽培する綿の木。紙漉きの材料、用具。フェルトの材料、用具。</p>
<p>授業科目 デザイン演習 2 (スクリーンプリント)</p>	
<p>◆前期 <input type="checkbox"/>後期</p>	
<p>工夫の概要</p>	<p>教材・資料等の概要</p>
<p>マリメッコのテキスタイルデザイナーであった特別客員教授脇阪克二先生に、学生の図案デザインを見ていただき、学生のデザイン力を引き出していただいた。</p> <p>スクリーンプリントの技術の特徴と、テキスタイルデザイナーに必要なスキルである柄のリPEATの付け方の理解を促した。また、出来上がったプリント生地を縫製に出して雑貨(クッション座椅子)の形にすることにより、用途に応じた柄、配色、生地の種類などの理解を促した。</p> <p>スクリーンプリントの実習に加えて、染色分野で不可欠な知識である「染料と被染物の組み合わせ」を理解を促すために、色見本製作を行った。</p>	<p>スクリーンプリントの材料、用具。</p>

授業科目 デザイン演習3 (産業テキスタイル)	
◆前期 □後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
2年前期～3年前期までの基礎授業では、自分がデザインした布を自分で制作することにより、テキスタイルの素材や技術を学んできた。しかし、卒業後の職となるテキスタイルデザイナーは布のプロダクトデザイナーであり、工場で生産することが大きな違いである。この授業では、産業テキスタイルの第一人者や、世界各地でテキスタイルと関わっている専門家を特別講師として招聘し、講義聴講、テキスタイル工場の見学を行う。実社会の現況を知ることから学生の視野を広げ、基礎授業、4年での自由制作、そして卒業後の仕事をつなぐ役割を持つ。	学生自身が興味のある、伝統的および現代的な産業テキスタイルをリサーチするために、専門家の話を聞き、産業の現場に身を置くこと自体を教材とする。
授業科目 デザイン実技Ⅲ (地場産業との連携)	
□前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
地元のテキスタイル工場と連携してその地域に受け継がれた素材や技術に触れることから、生活を楽しく豊かに変えるための新しいテキスタイルの活用方法を構想し、アイデアを生み出すことをテーマとする。 今年度はジャガード織りと帽子の工場を見学した後、学生がどちらかの工場を選択し、自分の生活で使用したい布プロダクトを制作した。また、有松鳴海絞りの工場では、自分でサンプルを染め、それをSOU・SOUディレクターの特別客員教授若林剛之先生に見ていただき、社会に受け入れられるデザインという視点で講評。成果物(手ぬぐい)は、2010年度有松鳴海絞り産地で学生たち自身が販売、デザイン～生産～販売までを一環して体験する。	学生が書いた指示書をもとに、現場で専門家とのやりとり自体を教材とする。
授業科目 デザイン実技Ⅳ (卒業制作)	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
染め、織り、プリント、テキスタイルプロダクト、テキスタイルアートなど、広義のテキスタイル領域の中から、自分の研究テーマを選択し、卒業制作を行う。学生の指向性を計り、独創性を伸ばすために、各学生とのディスカッションの時間を充分に取った。各学生のテーマに応じた素材や技術の提案を行い、アイデアをかたちにするプロセスにじっくりとつきあった。	学生が選択したテーマにあわせた情報(書籍、展覧会、素材、技術など)。

授業科目 デザインと文化3	
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
今年度のテーマ「インテリア、建築、ファッション」。毎年テーマを決め、そのテーマに沿った複数の外部講師を依頼し、事前レポート、講義中の課題を経て、講義後企画書作成を学生に課す。企画書を審査し、優秀作者はプレゼンボードやモデルを制作、展覧会に出品する。展覧会では学生のプレゼンテーションに対して教員と外部講師がコメントする。外部講師による座学だけではなく、複合的な授業にすることで、テーマに対する学生のより深い理解と想像力の喚起を促した。	外部講師の書籍、資料。テーマに合わせた学生展覧会の開催。

3. 学会等および社会における主な活動

◎学会活動		
文部科学省、教育支援申請「テキスタイルデザインにおける地場産業との連携」	2010年度	テキスタイル産業で活躍する優秀なデザイナーを育て、地元のテキスタイル産業の発展に寄与することを目標とする。 ワイズテキスタイル（ジャガード織り工場、各務原市）、森安帽子（名古屋市）、張正（有松鳴海織り、名古屋市）などでの布プロダクト製作を通じて、地元のテキスタイル産業と大学との結びつきをはかる。